

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 9
2014.6

ニュース

平成26年度入学式を挙行



国際的視野で 地域にも貢献する人材に

シリーズ 先輩訪問

ワタベウェディング 花房 伸晃さん

お知らせ 「JOSAI ROSE CLUB」発足

大学と地域 バラでつながる

 城西大学
 城西短期大学

目次

- 02 [ニュース] 国際的視野で地域にも貢献する人材に平成26年度入学式/学位記授与式
- 04 [お知らせ] 「JOSAI ROSE CLUB」発足
[ニュース] 水田記念図書館から図書館学生アドバイザー
- 05 [シリーズ]浮世絵
- 06 [紀尾井町ニュース]
- 07 [シリーズ]先輩訪問
ワタベウェディング 花房 伸見さん
- 08 [シリーズ]学生瓦版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [学園ミニニュース]
- 11 [エリア紹介] 毛呂山町 咲き誇る 花蓮の幻想世界
鶴ヶ島市 「サマーカーニバル in 鶴ヶ島」
東武線沿線情報 休日はお得なきっぷで

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
今年度の入学式は桜の満開の時期と重なりました。新入生や保護者たちは*桜の回廊。を通じて総合体育館に集い、各教室に分かれました。キャンパス内では、記念すべき日をカメラに収め合う光景があちこちで見られました。



ニュース

国際的視野で 地域にも貢献する人材に

入学式 2014.4.4

緑豊かな地で 青春謳歌を — 水田理事長



水田宗子理事長

晴天に満開の桜が祝福する中、平成26年度の入学式が2014年4月4日、総合体育館で執り行われました。新たに城西の仲間となった2003人が期待に胸膨らませて式に臨みました。

式辞で水田宗子理事長は来年度の創立50年に向けて、創立者を顕彰する「水田三喜男記念館」(仮称)の建設や薬学実験棟と機器分析センター、薬草園の建て替えを計画していることを紹介しました。また、海外姉妹校が約120校になったことや地域社会との共同プログラムにも積極的に取り組んでいることに触れたうえで、新入生に向けて「都心を離れた緑豊かなやき台のキャンパスで自然を愛し、身体を鍛え、深く考え、他者と対話する時間を大切に友情を育み、青春を謳歌してください」と呼びかけました。

また、森本雅憲学長は「生涯にわたる友人、趣味、師に巡り合うことができたなら、その人は人生の糸口のほとんどすべてをこの大学でものにしたことになるでしょう」と激励しました。来賓祝辞で韓南大学の金炯泰総長は「自分の健康や支えてくれる家族などに真

心の気持ちで感謝する新入生であってほしい」と語りました。

これに対し新入生を代表して経済学部経済学科の相田麗美さんは「城西大生の誇りを持ってそれぞれの目標に向かって歩んでいきたい」、短期大学ビジネス総合学科の山本有希さんは「大学生という限られた時間の中で、社会に貢献できる大人に成長したい」とそれぞれ決意を述べました。



宣誓する相田さん



学位記授与式 2014.3.20

城西魂で創造的な国づくりを — 森本学長

平成25年度の学位記授与式(及び卒業証書授与式・修了証書授与式)が2014年3月20日、総合体育館で行われました。この日、城西を巣立った卒業生は1774人で、これまでの卒業生総数は7万6883人になりました。式典では、学位記や証書が授与されるとともに、学業やスポーツに特に素晴らしい活躍してきた学生たちが特別表彰を受けました。

式辞で水田宗子理事長は「国際的な人材になるとともに地域に貢献できる人に育てていただきたい。自分の仕事と同時に国や民族の利益を超えた活動で、城西で学んだ精神、知識を活用してください」と呼びかけました。また、森本雅憲学長は告辞で「城西



魂で新しい創造的な日本の国づくりに活躍されることを期待しています」と述べました。

卒業生を代表して関口翔也さん(理学部)と小池春香さん(短期大学)が「城西で学んだ経験を生かし、社会に貢献していきたい」などと答辞を述べました。

理事長特別表彰は次の通り(敬称略)。

【学業賞】玉川大暉(経済学部)▽渡辺雄大(現代政策学部)▽酒田美紗貴(経営学部)▽高橋祐次(理学部)▽小師一紗(薬学部)▽木村モモ(短期大学)

【スポーツ賞】山口浩勢(男子駅伝部)

特別奨学生報告会

苦難乗り越え巣立ち

卒業式に先立ち、父母後援会から学費の補助を受けた卒業生8人と東日本大震災の特別支援金を受けた卒業生11人の報告会が清光会館で開かれました。報告会には卒業生のほか、水田宗子理事長や森本雅憲学長をはじめ佐々木宏治父母後援会

会長などが出席しました。

父母後援会の学費補助を受けた卒業生代表の池田英里香さん(薬学部)は、2年生のときに父親が急死して補助制度を受けました。池田さんは「一度は大学を辞めることも考えましたが、おかげで6年間充実した大学生活を送ることができました。成長した姿を父に見せることはできませんが、無事卒業できたことは大学や父母後援会の皆さんのおかげです」と感謝の言葉を述べました。

また、福島県浪江町に実家があり避難生活も経験した志賀真璃奈さん(経営学部)は特別支援金を受けた卒業生を代表して、「家族が大変な中で大きな支援をいただき、今日を迎えることができたことを心からうれしく思います。被災地の活力となるべく社会で飛躍できるよう努力していきます」と決意を述べました。



お知らせ **「JOSAI ROSE CLUB」発足**

大学と地域 バラでつながる

バラが広げるネットワークづくり——。本学卒業生や地域の方々を対象に本学との交流を深め、ローズガーデンを国際的な絆の輪に育てていくことを目的に2014年4月、「JOSAI ROSE CLUB」が発足しました。クラブは、在校生や留学生も交えた交流イベントも企画して、バラが育む大学と地域のネットワークづくりを進めていきます。

年会費は1000円。メンバーになると、①メンバーバッジのプレゼント②大学図書館の使用③城西大学スポーツ、広報誌「城西」の配布などの特典があります。

クラブのシンボルとなった「水田清子記念ローズガーデン」は2013年10月、短期大学創立30周年・薬学部開設40周年を記念し

てオープンしました。ブルガリア大使からブルガリアローズの苗木20本の寄贈を受けたほか、「アンネ・フランクのバラ」も植えられています。また、薬学部によるローズウォーターやローズのグッズが次々にできており、同窓生や多くの方々の評判になっています。

名誉顧問は水田宗子理事長▽伊利仁・元坂戸市長▽本多利夫・元鴨川市長の3氏。会長は熊沢貴子・短大同窓会長が務め、運営委員に3副学長が名を連ねています。



ニュース

地域図書館と連携し サービスの向上を図る

地域との連携に力を入れている水田記念図書館。最近の活動を図書館職員の関口千登世さんに報告してもらいました。

公開講座を開催

水田記念図書館は近隣の公共図書館6館(坂戸市、鶴ヶ島市、飯能市、日高市、越生町、毛呂山町)と相互協力提携を結び、さまざまな活動を行っています。その事業の一つとして、2014



年3月15日に本学図書館9階において地域相互協力図書館合同主催公開講座を開催しました。5回目となった今回は「暮らしに役立つ身近な経済・経営～高度成長を続ける中国とどう付き合うのか～」をテーマに、経営学部教授の張紀濤先生を講師に招き、高度成長を維持する中国とその貿易相手国である日米の推移を交えた国際経済の展望についてお話いただきました=写真上。講座には42人の方が参加し、質疑応答では日中関係の今後についての熱心な質問が続きました。また、会場に展示した関連資料もご

覧いただき、講演の内容に関心を深めていただきました=写真下。講座終了後には図書館見学会を開催し、本学図書館の取り組みや特色ある資料をご紹介します。



公共図書館との合同研修会

3月26日には地域相互協力図書館合同研修会を開催しました。毎年開催しているこの研修会は、公共図書館と大学図書館という異なる館種の課題や提案などについて話し合い、図書館司書としてのスキルアップによるさらなるサービスの向上を目標としています。今回は「図書館ボランティア」をテーマに、坂戸市立図書館で長期にわたり活動をされてきたボランティアスタッフの体験談や活動における熱い思いを語っていただき、取り組みの現状や今後の課題について意見を出し合いました。また、本学図書館学生アドバイザーも参加し、ボランティアへの関心を深めることができました。

今後も地域図書館と協力し合い、利用者サービスの向上を目指した取り組みを続けていきたいと思ひます。

図書館学生アドバイザー

今年度の図書館学生アドバイザーは、昨年度より2人多い8人態勢でスタートしました。図書館学生アドバイザーは、「学生が学生に相談できる」制度で、教員の推薦を受けた学生が図書館長からの委嘱を受けて、図書館内の1階と3階の相談席に常駐しています。活動内容は論文やレポートのテーマ設定や書き方のアドバイス、文献の探し方やパソコンの使い方などの学習支援で、アドバイスに必要なコミュニケーション能力の育成などアドバイザー自身も成長していくことを目指しています。相談はEメール(libadvis@josai.ac.jp)でも受け付けており、メンバーは「気軽に声をかけて」と呼びかけています。



ニュース

水田理事長 埼玉県知事とテレビ対談 2014.3.30

「地域・人を育てる」をテーマに

水田宗子理事長と埼玉県の上田清司知事との特別対談が知事公館で行われ、その模様は3月30日、30分間、テレビ埼玉で放映されました。特別対談は、埼玉県政と教育界のトップが「地域・人を育てる」をテーマに話し合うとの趣旨で行われました。



対談する水田理事長(右)と上田知事(中央)

地域連携について、水田理事長は「2015年に創立50周年を迎える城西大学は、国際化とともに地域に密着した大学を目指している。学生のアイデアで大学の近くを流れる高麗川プロジェクトという活動をしている。自然環境の再生やエコ活動、地域イベントなどを行っている」と紹介しました。

これに対し知事は「埼玉県は、県土に占める川の面積は日本一。水辺空間の整備は重要だ。学生たちが活動していることは、大変うれしい」と述べました。また、女性の社会進出について、水田理事長は「日本は少子高齢化が進んでから、やっと女性の社会進出の重要性に気がついた、という感じがする。女性が働き、生きていくことができるような社会文化をつくらねばならない」と述べました。

シリーズ

浮世絵

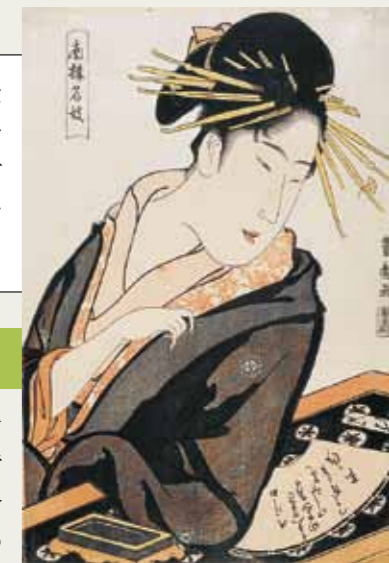
～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえぬ歴史の懐きさを感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『南楼名妓』 歌川豊広

水田コレクション展「浮世絵版画の技巧と表現」で展示された大判錦絵。机上の扇面を眺める芸妓が描かれている。間着の菊模様が見える表現が俊逸だ。南楼とは、北の吉原に対する南の品川遊

郭を指す。鶴首、細面の瓜実顔に細目、富士額が豊広の美人の特徴だが、さらに本図では、つり上がった目など像主の個性を描き分けていて、大首絵という形式とともに豊広の作品の中では珍しい作例となっている。



大判錦絵／寛政～享和(1789～1804年)

紀尾井町ニュース

法人本部および姉妹校の城西国際大学と共同で実施した事業やニュースなどをご紹介します。

スウェーデン大使夫人作品展開催 2014.5.14~6.12

斬新なテキスタイル30点

ラーシュ・ヴァリエ在日スウェーデン大使夫人で工芸作家のエヴァ・ヴァリエさんの作品展が5月14日から6月12日まで、紀尾井町キャンパス3号棟の水田美術館アートギャラリーで開かれました。

エヴァ・ヴァリエさんは、最初の来日の際に大学の被服学科に在籍し、その後、スウェーデンの職業訓練学校などでテキスタイルや機織りを学びました。紙糸や麻糸を織る紙工芸作品を制作し、世界各国で作品を発表してきました。今回は、日本の謡本を用いた作品をはじめ約30点が展示され、訪れた人たちの目を楽しませました。5月14日のオープンセレモニーで、エヴァ・ヴァリエさんは作品展開催に感謝の言葉を述べました=写真。



チカダ賞受賞記念の国際シンポ開催 2014.6.7

生命の尊厳と詩の未来語り合う

水田宗子理事長が昨年12月、スウェーデン政府からチカダ賞を受けたのを記念して6月7日、紀尾井町キャンパス1号棟で国際シンポジウム「生命の尊厳を表現すること」が開かれました。チカダ賞は、スウェーデンの詩人でノーベル文学賞受賞者のハリー・マッティンソンの生誕100年を記念して2004年に創設された賞で、生命の尊厳を表現した東アジアの詩人に贈られ、水田理事長は6人目(日本人では3人目)の受賞者となりました。

シンポジウムには、第4回受賞者の申庚林氏(韓国)、第5回受賞者の文貞姫氏(韓国)のほか、北島氏(中国)ら東アジアの高名な詩人が参加。北欧の詩人と東アジアの詩人との出会いとしてのチカダ、生命の尊厳、放射能汚染後の世界、漂泊と放浪、外地経験と詩・表現、そして詩の未来について語り合いました。

スロヴェニア前大統領特別講演会開催 2014.4.23

「国連の未来」テーマに

スロヴェニア共和国のダニロ・テュルク前大統領による特別講演会「国連の未来」が4月23日、東京紀尾井町キャンパスで行われま

した=写真。

スロヴェニア共和国は、1990年に旧ユーゴ内の共和国において初の複数政党制による選挙が実施された後、91年に独立を宣言。92年に各国の承認を得ました。ダニロ・テュルク前大統領は法学者と外交官の経験を生かし、2000年から05年にかけて国連事務次長補として紛争防止問題などに取り組みました。07年には共和国の第3代大統領に選出され、12年まで務めました。

特別講演会は本学の中欧研究所が主催。講演でダニロ・テュルク前大統領は国連のシステムの概要のほか、安全保障、開発、人権の各分野について体験したエピソードも交えて話し、水田宗子理事長や森本雅憲学長らのほか、両学の留学生や日本人学生が熱心に耳を傾けました。講演会後のレセプションでは、講演に参加した学生からさまざまな質問がなされ、和やかな雰囲気の中で予定時間を超えて歓談が行われました。



タイのワライラック大学と学術交流協定を締結 2014.5.9

交流深め人材育成を

本学は5月9日、タイのワライラック大学と学術交流協定を締結しました。本学は国際交流活動の強化を目的に各国の大学と協定を結んでおり、タイでもこれまでバンコク大学、ランシット大学、泰日工業大学と学術交流協定を締結しています。ワライラック大学は1992年設立。タイにある31の国立大学の一つで、医学部、看護学部、薬学部など11学部を有し、6000人の学生が学んでいます。本学の学生が毎年参加している「アジア・サマープログラム」において、既に交流を始めていますが、今回のキーラート・サングアンサイ学長らの来校に合わせて、協定を結ぶことになりました。

締結に先立ち水田宗子理事長は「本学とワライラック大学は、共通の学部が多く、今回の締結を機に具体的な交流を推進していきたい」と述べたのに対し、キーラート学長も「両学との交流を深め、人材育成に努めていきたい」と応えました。



水田理事長(右)とキーラート学長

先輩訪問

各界で活躍するOB、OGを紹介する「先輩訪問」。今回は、4月1日にウェディング業界のリーディングカンパニーである「ワタベウェディング」の代表取締役社長執行役員に就任した花房伸晃さんにお話を聞きました。



人生は巡り合わせ 視野を広げ 誠実に

ワタベウェディング代表取締役社長 花房伸晃さん

——創業以来、お手伝いした結婚式は60万件を超えるとお聞きしています。

「京都の西陣が創業の地で、今の相談役の母親が近所の方に結婚式用の着物をお貸ししたのが始まりです。昨年に創業60年、海外ウェディング40年を迎えて集計したところ、60万件を超える結婚式を扱っていることが分かりました。ワタベウェディングといえば、海外ウェディングと言われるようになりましたが、相談役の代になって、ハワイで和装による結婚式を挙げたいというお客様がいて、それがヒントになって海外ウェディングに力を入れるようになりました。ハワイでビジネスモデルを創って試行錯誤しながら40年続いているということです」

——少子高齢化や晩婚化が進んでいますか。

「結婚式の簡素化が進んでいる傾向もあって、そうした質問をよく受けますが、日本の年間婚姻組数は約67万組。そのうち、なんらかのお披露目をしているのが約50万件。さらにその10%の約5万件が海外ウェディングなんです。50万件のうちワタベウェディングが取り扱っているのは約3万件に過ぎません。上位5社でも占めるのは15%ぐらい。会社の事業としては、まだまだ伸びしろがあるということです。海外ウェディングに加え、国内では目黒雅叙園とメルパルクという総合結婚式場、この3本柱が大きなブランドです。一方、接客業ですので、お客様にどれだけ誠意を持って誠実に対応させていただくかも大切なことです」

——座右の銘を教えてください。

「自分の行動規範をしっかりと持ちなさいということで『規矩(きこ)を持て』という言葉がいつも頭の中に入っています。社会人になる際に、先輩に教えてもらいました。大きな信念を持つとか、そういうことではなく、何か簡単なことでも、例えば、誰かを待っているときに壁などに寄りかからず立っているとか、カバンを持つときもしっかり手を持つとか、基本を大事にしろということだと思います」

——どんな学生でしたか。

「高校のときに数学とか化学が好きで理学部に進みましたが、2年生のときに将来のことも考えて、もっと広いいろいろなことを学びたいと経済学部へ転じました。当時、鈴木豊先生がおいでで、ゼミで企業会計や会社経営の面白さを教わりました。会計事務所でも担当した東京・本郷の旅館やホテルで経営の面白さを知ったのが、全日空の中途採用に結び付きました。携わったのはホテル経営でしたが、10年前に先輩から誘われてワタベウェディングに入ったという次第です。大学時代には想像すらできない今の姿です。縁というものはあるものですね。そういう意味で、人生あまり先まで決めないほうがいいのかなと思います」

——城西大生にメッセージをお願いします。

「私の信条は、格好良く言えば一期一会、と言いますが、お会いする相手と杓子定規なおつきあいではなく、将来また何かあるのではと想像しながらおつきあいすることですね。巡り合わせというのは、いろんな所であるのだという経験をしてきました。これから社会に出ていく後輩には、もっと視野を広げて一つ一つに誠実に対応するということを忘れないでほしいと思います。箱根駅伝は毎年1月3日に新橋で応援しています。非常に感動的です。城西は新興大学ですが、頑張っている先輩はたくさんいます。出会いを大切にしてください」

■ワタベウェディング

海外挙式サービスの草分けで、国内約30店舗、海外約10店舗の直営サロンを運営している。国内では総合結婚式場「目黒雅叙園」を傘下にし、メルパルク(旧郵貯会館)11施設も運営している。本社は京都市下京区。東証1部上場で、資本金は41億円余。従業員数は単体で529人。戦後、貸衣裳店から出発、1973年に業界初の海外出店(ホノルル店)を果たした。海外挙式サービス事業と関連の旅行事業のほか、挙式施設運営などの国内挙式サービス事業、ウェディングドレスなどの製造販売事業、フォーマル衣裳のレンタル事業などを展開する「総合ウェディング企業」として成長している。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

「努力は報われる」

全學應援團團長代行 齊藤優輝さん(現代政策学部2年)

「應援團から城西大学を盛り上げる」。齊藤優輝さん=写真=は力強く語る。全學應援團はチアリーダー部と一緒に男女の駅伝部や野球部の応援活動を行っている。

現在、全學應援團のメンバーは齊藤さんのみ。齊藤さんは東京農業大学第三高等学校で應援團長を務めた経験があるが、今の應援團には先輩がいないため、普段は体育館前でOBの指導の下、声出しや筋トレなどを行っている。時間が空いている時はOBの演舞のDVDを見て練習している。練習を見て笑う人もいるが、齊藤さんは「それで構わない。目立てば應援團が有名になる」と意に介さない。人数が少ないため、満足な応援ができなかった。その分、個々の活動を通して仲間を大切にしたいという気持ちが大きくなったという。

やりがいは、選手らからの「ありがとう」の言葉。応援で人と人をつなげられるのがなによりだそう。應援團は厳しいイメージもあり、入部しづらい雰囲気もあるが、後輩が、入ってよか

ったと思える環境づくりをしていくという。最後に城西生へのメッセージを聞いてみた。「大学の4年間で新しいことをやってほしい。馬鹿にされたり、笑われたりすることもあるかもしれないが努力は報われる」と笑顔で話してくれた。

(取材:広報委員会3年・丹波瞭、戸澤敦子、松本拓郎)



水田記念図書館・図書館職員さん 蔵書45万冊 気軽に利用を

本学のシンボルの一つ、水田記念図書館は約45万冊の蔵書があり、我々の学生生活を支えている。図書館では、専門の



図書館運営を支える職員さん

資格を持った図書館司書が、学生一人一人に向き合いながら、レポートのテーマ設定などの相談に応じている。また、書籍の検索システムが充実しているほか、ノートパソコンやiPadの貸し出しもしており、学習支援を積極的に展開している。

学生がほかの人に読んでほしい本をプレゼンするビブリオバトルや、学生たちが図書館に入れる本を選ぶ学生選書など学生が参加できるイベントも数多く行っている。学生のみならず、一般の方にも開放しているので、多くの方が利用している。

「とにかく来てほしい! 来て損をすることはない!」や「私たちがうまく使ってほしい。城西生を全力で支えていく」などと力強いメッセージをいただいた。図書館を気軽に、有効に活用して学生生活を充実させてほしい。

(取材:広報委員会3年・戸塚優樹、須田達也、栗原勇斗)

高砂熱学工業株式会社さん 学内環境を整えるプロフェッショナル

前号の「警備のおじちゃん」に引き続き、働く人シリーズ第3弾として、大学内外のさまざまな設備を管理している高砂熱学工業株式会社さん(以下高砂さん)=写真=を取材した。



高砂さんは全員で13人。うち1人は24時間態勢で生命科学研究所センター(通称・動物棟)に就くため、それ以外の学内外の設備の管理は12人で行っている。

仕事は、電気や給排水、動物棟以外の空調管理のほか、教室の放送機材やプロジェクター、蛍光灯関係、電話関係、エレベーターの管理、災害時の対応など多岐にわたっている。

仕事をする上で心掛けていることは、「大学のために何ができるのか」を常に考え、「現場、現物、現実」の「3現」をよく見ることだという。1人でも欠けてしまうと大変なので、健康と安全に気を配っているそうだ。

高砂さんでは「東日本大震災以後の節電によって学内が多少暗いかもしれないが、ご協力をお願いします」と呼びかけている。

(取材:広報委員会3年・貝沼大輔、中原雅人、池田みなみ)

広報委員会 大学内外の情報を集め発信

ちょっと宣伝めくが、このコーナーを担当している広報委員会を紹介させていただきたい。広報委員会は、放送局、編集局、渉外局、財務局という四つの局から成る。放送局は昼放送を中心に活動。放送内容は各団体の活動報告や昼時に合った音楽を流している。また依頼があれば告知も行っている。その他にも音響機材を貸し出して他団体の活動を手助けしている。

編集局は新入生を対象とした情報誌「STREAM」の作成に力を入れている。大学内の施設情報や学校周辺にある飲食店、美容院、娯楽施設の情報を記載している。渉外局は「STREAM」の協賛店舗をリサーチし、実際にお店に行き協賛金の交渉をする。それが委員会の活動資金となっている。財務局は委員会の資金を管理している。「委員会活動が円滑に行われるためには資金運用が大きなカギになる」(同局)。それだけに責任の大きな局である。

音響機材の貸し出しの希望のほか、このコーナーで取り上げてほしい団体などがあれば、積極的に声を掛けていただきたい。

(取材:広報委員会4年・萩原優人、田中陽子、近藤一樹)



編集会議中の広報委員会メンバー

学園ミニニュース

第286回「化学科コロキウム」

今年度初の理学部の化学科コロキウムが4月25日、開催されました。今年が国連の「世界結晶年」に当たることから、元国際結晶学連合会長で東京工業大学名誉教授の大橋裕二先生が「現代結晶学誕生100年の歴史—世界結晶年2014を記念して—」と題して講演をされました=写真。レントゲンによって発見されたX線の本質解明までに約20年かかったことや、新進の若手と大御所的な存在との間の不協和音があった前半の50年の中で、日本の研究者の功績にも言及されました。後半の50年は、先生も手がけた測定器の進歩や解析のためのコンピューターの進歩が重なって今日に至っていることを説明されました。



大橋先生は今後の科学の発展、特に結晶学で、これまで観測できなかった現象を見つけ、その現象を観察する方法を開発しようという芽を育てる必要があることを強調して講演を結びました。講演後、先生は研究への具体的なアドバイスもされました。

JMBAスカラシップ奨学金授与式

連携協定を結んでいる大連理工大学管理学院からの大学院生(MBA)を対象にした「JMBAスカラシップ奨学金」の授与式が5月13日、紀尾井町キャンパスで行われました。今回、授与されたのは、顧則嘉さん▽呉貫英さん▽張青雲さん▽陳奇さん▽劉瀟さん。水田宗子理事長が「城西の大学院で、できる限り学んでください。いま日本と中国の関係は悪い状況にあります。この時だからこそ人間の交流、学問・文化の交流を活発にしなければいけません。日本のさまざまなことを学んでください」と話し、賞状を授与しました。授与者を代表し、張さんが「城西で学んで、将来、世界のどこに行っても通用する実力をつけたい」と述べました。

経営学部の「メディア論」講義

毎日新聞社の協力で今年も前期講座がスタートしました。今年で3回目。各専門分野で活躍する論説委員や一線の記者のほか、広告局の女性社員も登場し、メディアの現状や活用の仕方を紹介します。

4月10日の第1回目はガイダンスを兼ねて、城島徹・「教育と新聞」推進本部委員で元ヨハネスブルク支局長が「異文化理解と報道」をテーマに講義。学生たちは、サッカーJリーグで浦和レッズが無観客試合の処分を受けたゲームの新聞コピーをもとに、少人数のグループに分かれて自己紹介と記事の感想を述べ合いました。前期、後期の最後の講義では、「ニュース時事能力検定」の模擬版に挑戦します。



メディア論講義の様子

オープンキャンパスがスタート

今年も本格的なオープンキャンパスが5月17日から始まりました。この日は多くの高校生や保護者が新緑に映えるキャンパスを訪れました。参加者たちは、在校生たちが担当した受付=写真=で資料や食券、記念品の箸を受け取り、模擬授業を見学したり、学生による相談コーナーを訪れたりしました。入試説明会や保護者説明会ではメモを取りながら熱心に聴き入る参加者の姿がありました。オープンキャンパスはこの日を含め、9月28日まで計8回行われます。



危険物取扱者に9人が合格

理学部化学科の卒業生は、消防法で定める危険物(薬品)を取り扱う機会が多いため、危険物取扱者国家試験への受験を勧めています。昨年度は9人の学生が試験に合格しました。内訳は、消防法で定められているすべての危険物の取り扱いとその保安監督者である甲種危険物取扱者が5人、免状で指定されている特定の危険物を取り扱うことができる乙種危険物取扱者が4人。また、高圧ガス乙種化学製造保安責任者と高圧ガス第2種販売主任者にも各1人が合格しました。

エリア紹介

毛呂山町

6月より公開
咲き誇る花蓮の幻想世界

毛呂山町の花蓮育成は、行田市より古代蓮の根を株分けしていただいたことから始まります。その後、毛呂山総合公園プール跡地での育成は困難を極めました。地元ボランティアの皆さんなど大勢の方々のご協力をいただき、大輪の花を咲かせることができました。多くの人たちの努力で花開いた蓮の清らかで荘厳な花弁は、見る人の心に癒やしを与えてくれるでしょう。また、園内には行田蓮をはじめ、24種類ものさまざまな蓮が咲き競い、悠久の空間

を創りだしています。

今年も6月下旬からの公開を目指して日々作業を行っています。8月上旬には花蓮会場でイベントを行う予定です。「光竹の祈り〜宵の光明〜」と題し、竹を使いロウソクの明かりだけで会場を照らす幻想的な世界を表現します=写真左下。多くの方々に会場にお越しいただけるようよろしくお願いいたします。また、イベントの詳細につきましては毛呂山町ホームページなどで紹介する予定です。主催は毛呂山町観光協会、後援は毛呂山町。問い合わせは、町産業振興課商工観光係へ(049-295-2112内線175)。



花蓮



鶴ヶ島市

「サマーカーニバル in 鶴ヶ島」
夏の夜、サンバのリズムが響きます

今年で20回目を数える「サマーカーニバル in 鶴ヶ島」は市を代表する夏祭りです。昨年は2万人の人でにぎわいました。

今年も7月19日(土)の午後3時から、「鶴ヶ島駅通り」を歩行者天国にして開催します。会場には50店を超える模擬店が出店する中、商店街の方々も出店します。それらの模擬店は、皆さんの好意でとてもリーズナブルなため、小さな子どもや高齢者も安心してお祭り気分が味わえます。

また、バラエティーに富んだプログラムで、訪れた方々を楽しませてくれます。そして、メインイベントとしてサンバチーム「浅草仲見

世バルバロス」のカーニバルは、とても華やかなうねり満点で夏祭りを大いに盛り上げてくれます=写真(昨年)。当日は会場にぜひ、お立ち寄りください。

【当日の主なプログラム(予定)】

- ▽鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校鼓笛隊演奏
- ▽鶴ヶ島市立南中学校吹奏楽部演奏
- ▽阿波踊り
- ▽サンバパレード
- ▽和太鼓演奏



東武線沿線情報

休日は、お得なきっぷで
ぜひお出かけください!

東武東上線は東急東横線、横浜高速みなどみらい線との相互直通運転を開始してから1年経過いたしました。東上線から自由が丘、渋谷エリア、横浜エリアに乗り換えなしでお出かけできます。ご家族、ご友人、大切な人とのすてきな思い出作りに、お得なきっぷを使って便利に快適にぜひお出かけください。

「東上東急線トライアングルチケット」は東急線の渋谷〜自由が丘〜二子玉川間のエリア(トライアングルエリア)へ、お友達同士でお買い物や大切な人とおしゃれなカフェで楽しいひとときを過ごしたい方に、ぜひオススメのきっぷです。

「東上横浜ベイサイドきっぷ」は東上線から横浜や元町・中華街等へのお出かけに大変便利なきっぷです。

詳しくは、東上線池袋駅、朝霞駅〜玉淀駅に置いてあるパンフレットまたは東武鉄道ホームページをご覧ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
http://www.josai.ac.jp